

今週の話題：

<SARS、トロント(カナダ)への渡航勧告解除>

トロントにおける SARS 可能性例の数の減少、地域内での感染伝播の最後の症例が発生してから 20 日が経過していること、新たに確認された新しい輸出例がないことが報告されている。カナダ政府は、WHO が推薦する空港における積極的なスクリーニングを実施することを保証している。以上のことより、トロントへの渡航勧告が、2003 年 4 月 30 日に WHO により解除された。

<ベトナムでの SARS の制圧>

2003 年 4 月 8 日から新たな SARS 患者および他国への患者の伝播が報告されていないことから、WHO は 4 月 28 日、ベトナムを伝播確認地のある国のリストから除外した。ベトナムは、4 月 8 日以前 SARS の 63 症例と 5 名の死者を報告していたが、その後の 20 日間にわたり新たな症例が発生しなかったのは、以下のような WHO が推薦する適切な検出手段や防御手段に従い、対策を意識的に講じてきた結果である。

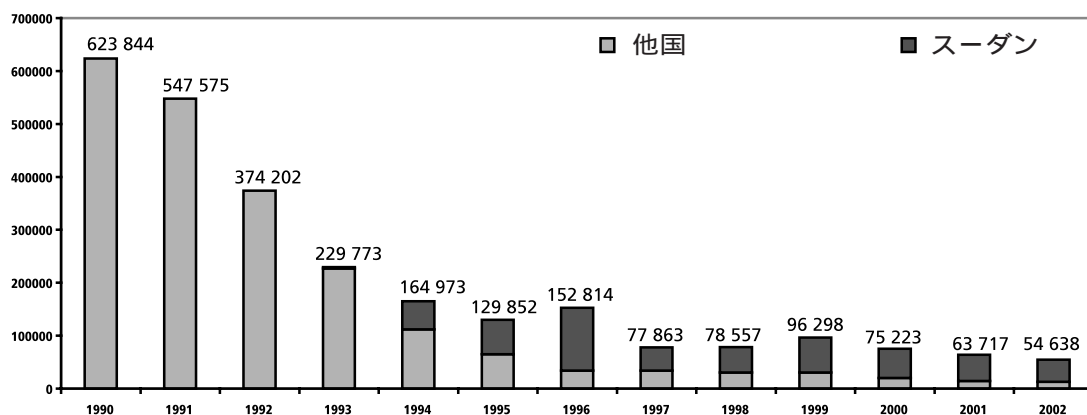
- ・ 迅速な SARS 患者の同定および彼らの行動や接触の特定
- ・ 病院における SARS 患者の隔離
- ・ SARS 患者の治療に従事する医療関係者の適切な感染防御処置
- ・ SARS 可能性例の広範囲の同定や隔離
- ・ 海外渡航者への出国時スクリーニング
- ・ 他の政府及び機関への迅速かつ詳細な情報交換

WHO は、SARS の状況は制圧する見込みのある段階にまで達している、とコメントしている。

<メジナ虫症の根絶 - 地球規模の監視の概要、2002 年>

メジナ虫症根絶運動は、2002 年度においては世界規模での症例数が減少し続けるという良好な進展を続けてきた(図 1)。1990 年から 1996 年にかけて症例数の 96% という劇的な減少が見られ、その後も減少している。しかし、スーダンで大量の症例が発生し、明確な傾向としては捕らえにくくなっている。

図 1：メジナ虫症の世界症例数 1990-2002 年



メジナ虫症は現在、アフリカの 13 カ国に存在する(表 1)。2002 年に世界規模で報告されたメジナ虫症症例数は、54,638 例でありその 76% がスーダン(41,493 例)に集中している。

2003 年 1 月 26 日-28 日に、ブルキナ・ファソの Doli において、ブルキナ・ファソ、マリ、ニジェールの遊牧民を対象としたメジナ虫症のサーベイランスに関するワークショップが、WHO により開催された。ワークショップにより、遊牧民の移住パターンの検討と移動ルートの特特定が行われ、共通のサーベイランスの手段が決められた。

2003 年 4 月 1 日-4 日に、ウガンダの Kampala で第 8 回メジナ虫症根絶プログラム責任者会議が開催され、常在国 12 ヶ国(中央アフリカ共和国を除く)からの代表者、いくつかの国際組織と NGO、またスポンサー団体が会議に出席した。会議では、2002 年度の各国の報告書が提出され、今後の国境を越えた取り組みや、情報交換の推進が話合われた。会議に並行して、12 ヶ国のデータ管理者を対象に「ヘルスマップ」の新版の使用の為の研修会が開かれ、各国の最新データがデータベースに登録された。

* 国別分析、2002 年度

常在国

ベナン： 国内発症例 157 例(輸入感染 24 例)、封じ込め率 94%、発生時期 9 月 - 12 月、男性の方が女性より感染率が高い傾向

ブルキナ・ファソ：国内発症例 580 例(輸入感染 11 例)、封じ込め率 75%症例数前年度比 43%減、発生時期 5 - 6 月、9 - 10 月

中央アフリカ共和国：データ送付されなかったためデータなし

コートジボアール：国内発症例 192 例(輸入感染 6 例)、封じ込め率 95%、症例数前年度比 15%減、発生時期 1 - 3 月

エチオピア： 国内発症例 24 例(輸入感染 23 例)、封じ込め率 74%、症例数前年度比 140%増

ガーナ： 世界 2 番目の流行国、国内発症例 5,606 例(輸入感染 5 例)、封じ込め率 66%、発生時期 1 - 6 月、10 - 12 月

マリ： 国内発症例 858 例(輸入感染 3 例)、封じ込め率 58%、症例数前年度比 21%増、発生時期下半期

モーリタニア： 国内発症例 42 例(輸入感染なし)、症例数前年度比 55%減、発生ピーク時期 7 - 11 月

ニジェール： 国内発症例 233 例(輸入感染 15 例)、封じ込め率 60%、症例数前年度比 42%減、発生ピーク時期 7 - 11 月

ナイジェリア： 世界 3 番目の流行国、国内発症例 3,820 例、封じ込め率 67%、症例数前年度比 29%減、発生ピーク時期 1 - 4 月、流行は特に南東部と南西部に多い。

スーダン： 世界一番目の流行国、世界の症例数の 76%を占める。国内発症例 41,493 例、封じ込め率 52%、症例数前年度比 16%減、部族間紛争が続くスーダン南部に患者が集中

トーゴ： 国内発症例 1,472 例(輸入感染 30 例)、封じ込め率 62%、症例数前年度比 10%増

ウガンダ： 国内発症例 6 例(輸入感染 18 例)、封じ込め率 75%、症例数前年度比 88%減、

根絶の前段階の国

カメルーン： 輸入感染 3 例(全例がナイジェリアから)

ケニア： 輸入感染 17 例(全例がスーダン南部から)、封じ込め率 100%

セネガル、チャド、イエメン：発症例の報告なし

* 編集ノート：数ヶ国において、国家的メジナ虫症撲滅プログラムの目標である患者数の一定の減少をこの 3 年間達成できていない。長期間高い発生率を保持し続けている村落に特別な注意を払うべきであり、この目標達成の停滞の理由を解明し、直面する問題点の解決法を明確にする必要がある。

表 1：メジナ虫症、月別症例報告、2002、図 2：メジナ虫症、症例数増減の割合、2001 年と 2002 年の比較、図 3：メジナ虫症、症例数 1 以上の村落数の増減割合、2001 年と 2002 年の比較、図 4：メジナ虫症症例数、流行国の村落別、図 5：メジナ虫症症例数、地区又は州別、ナイジェリア、スーダン（以上 WER 参照）

流行ニュースの続報：＜インフルエンザ＞

デンマーク(2003 年 4 月 19 日)¹：インフルエンザ様疾患(ILI)は 3 月第 2 週の発生以後、3 週間拡大し続け、4 月第 2 週になり終息した。インフルエンザ H1N1、H3N2、および B 型が分離された。

フランス(2003 年 4 月 12 日)¹：フランス南部では 4 月第 1 週までに、北フランスでは 3 月第 5 週までに散発的に流行し、インフルエンザ A 型と B 型ウイルスが分離された。

イスラエル(2003 年 3 月 29 日)²：3 月第 1 週の局地的流行の後、インフルエンザの流行は収まった。

イタリア(2003 年 4 月 19 日)¹：流行の拡大は 2 月 4 週に報告され、5 週間続いた後収束した。

ポーランド(に 003 年 4 月 19 日)³：ILI の流行は、3 月 1 週目にピークとなり 10 万人中 671.8 人の割合で患者が発生した。その後減少し 4 月 2 週目には 10 万人中 16.3 人になった。

参照：¹No.12,2003,p.87、²No.8,2003,p.54、³No.14,2003,p.120

＜海外旅行と公衆衛生 2003、2003 年 1 月 1 日版＞

海外旅行者のための、食物や時差ぼけに関するようなことから、潜在的危険性を持つ感染症やその予防方法まで、多岐に渡り海外で陥り易い危険、健康面での必要とされる心構え等の最新の情報を含む出版物が刊行された。購入についての問い合わせなど詳細は WER 参照のこと。

(井本淳一、小西英二、石川雄一)